

1月1日現在の就職活動状況

就職活動スタートから1カ月あまり。学生の就職活動はどのように進んでいるのだろうか。12月広報開始3年目の特徴はうかがえるだろうか。1月1日現在の日経就職ナビ・学生モニター就職活動状況について調査を行い、前年同期調査と比較するなどして、年内の動きを分析した。

1. 就職戦線の見方

○先輩たちより「厳しくなる」との見方が大幅に減少。慎重派と楽観派の割合が逆転

2. 1月1日現在のエントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は48.0社。前年同期より微減
- ダイレクトメール到着数は、平均459通。1日あたり15通

3. セミナー・会社説明会への参加状況

○一人あたりの平均参加社数は25.4社。学内開催セミナーへの参加が増加

4. 選考試験への参加状況

- エントリーシートの平均提出社数は3.5社。前年同期より減少
- 選考試験の平均受験社数は、筆記2.1社、面接1.9社、集団討論1.7社

5. 現時点での志望業界

- 志望業界を「決めている」92.6%。
- 志望業界1位は「銀行」、2位は「水産・食品」。上位業界の顔ぶれは変わらず

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

○「将来性がある」「仕事内容が魅力的」などが依然上位。労働条件に関する項目が上昇

7. ブラック企業についての考え

- ブラックだと思う条件、「残業代が支払われない」「労働条件が過酷」「離職率が高い」などがトップ項目。
- ブラック企業だと思う企業は「受けない」62.5%。「場合によっては受ける」32.2%

《調査概要》

調査対象 : 2015年3月卒業予定の全国の大学3年生 (理系は大学院修士課程1年生含む)
 回答数 : 1,650人 (文系男子536人、文系女子494人、理系男子409人、理系女子211人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2014年1月1日~7日
 サンプルング : 日経就職ナビ 2015 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

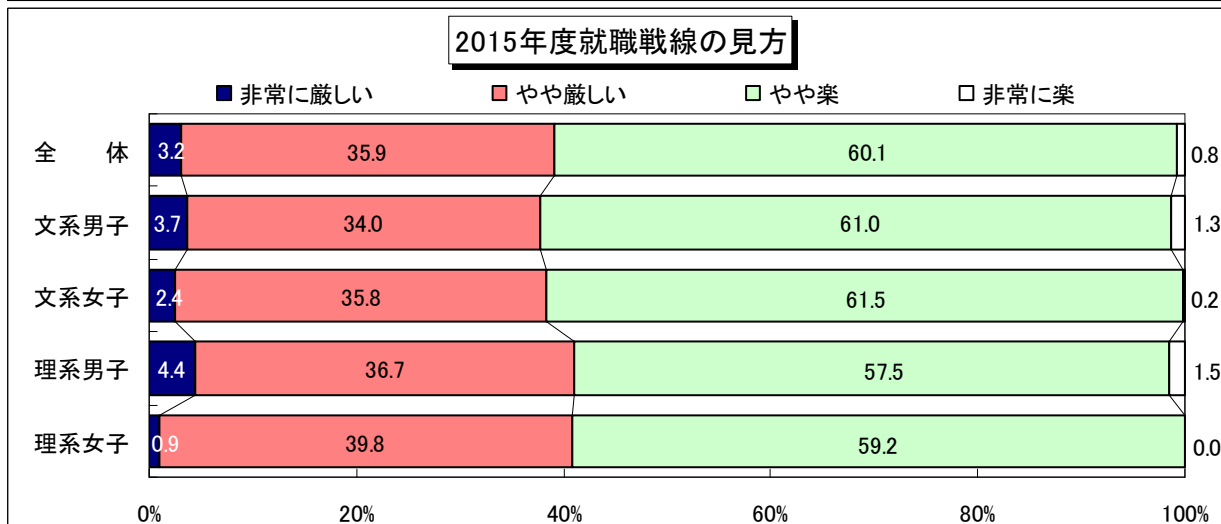
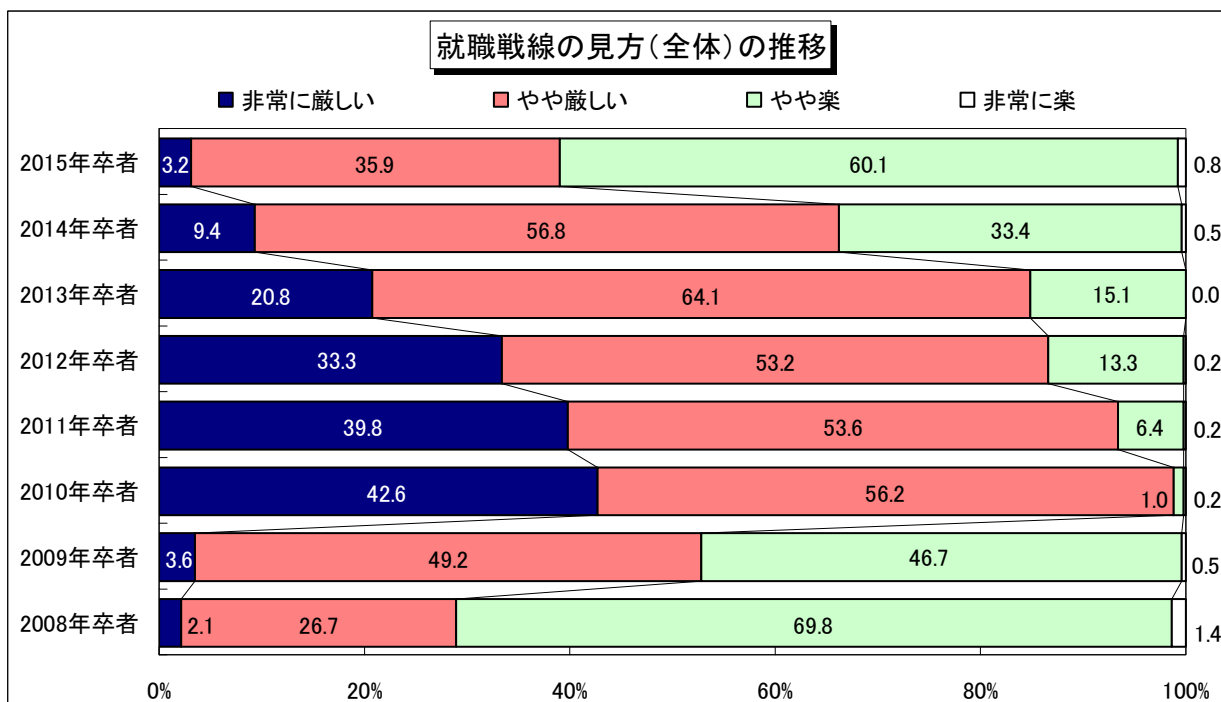
「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職戦線の見方

昨年11月に実施した第1回調査に引き続き、就職戦線の見方(自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのか)を尋ねた。「非常に厳しい」「やや厳しい」の合計、つまり、より厳しくなると見ている人は39.1%と4割弱。前年同期調査では66.2%と6割と超えていたので、厳しいとの見方は急激に緩和されている。逆に、「やや楽」が33.4%から60.1%へと2倍近くに増え、慎重派と楽観派の割合がほぼ逆転した。

学生の就職戦線の見方は就職環境(企業の採用意欲)を端的に反映しており、リーマン・ショック前の脱・氷河期と言われた2008年卒者では「楽」との見方が7割を超えていた。リーマン・ショック後最初の就活生だった2010年卒者から「厳しい」に大きく舵を切り、その後、内定率の向上に伴って年々「厳しい」と見る学生は減少、今期一気に逆転した格好だ。

アベノミクス効果等による好業績を背景に企業の採用意欲はここ数年で最も高まっているが、加えて12月広報解禁も3年目となり、学生側も先輩たちの活動を見てスケジュール感がある程度掴んでいることも手伝って、「厳しくなる」との見方が大幅に減少したのだと見られる。



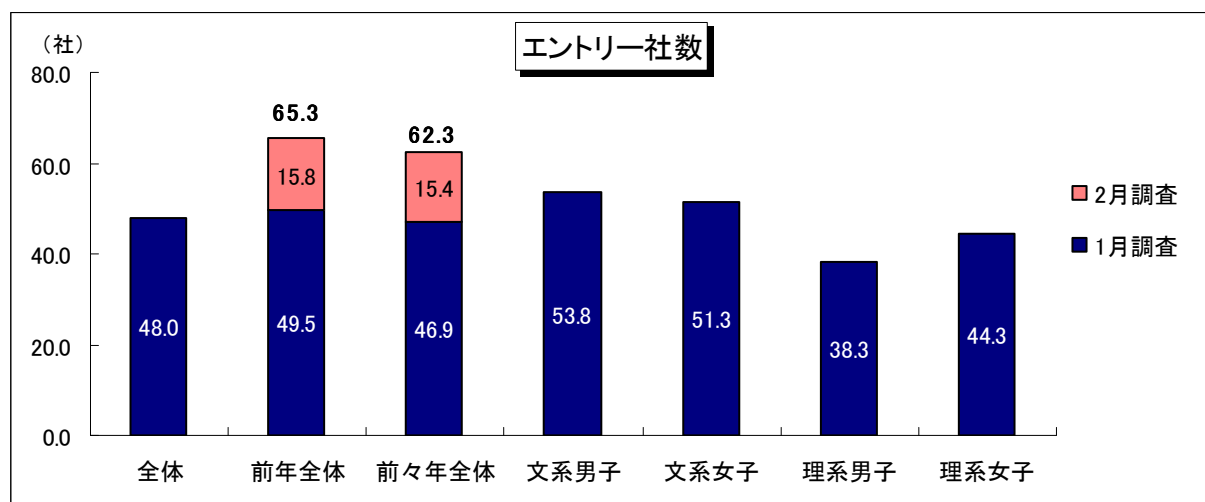
2. 1月1日現在のエントリー状況

就職活動スタートから1カ月が経過した1月1日時点の活動量を確認してみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は48.0社。就職環境が改善すると学生のエントリー社数は減る傾向にあるが、やはり前年同期(49.5社)よりやや少なかった。就職活動に熱心なモニター学生ですら微減していると捉えると、一般の学生ではもっと減少幅が大きいのではないだろうか。

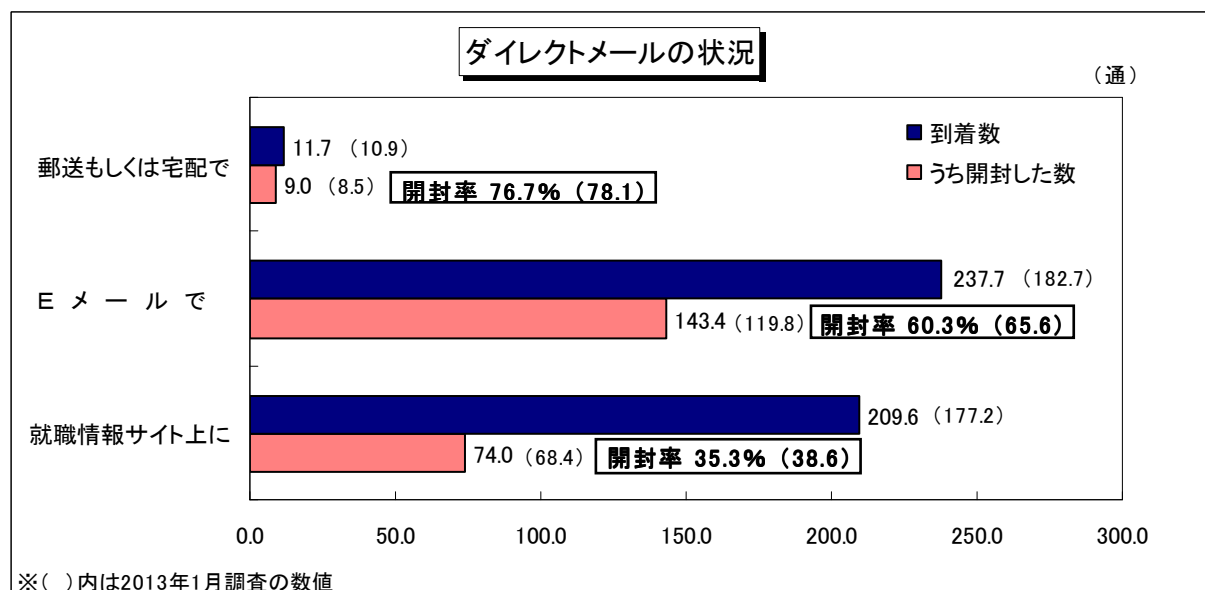
一方、学生が受け取ったダイレクトメールの到着数は、郵送・Eメールなど全形式の合計で平均459通。1日あたり約15通を受け取った計算になる。前年同期の370通よりも約90通増え、企業側がより一層アプローチを強めている様子が表れている。

到着数の増加に伴い開封した数自体は増えたが、開封率で見ると前年よりもやや下がっている。



エントリー社数の内訳/平均

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト経由でのエントリー	36.3	36.4	39.2	39.7	29.4	33.7
企業ホームページからのエントリー	11.0	12.3	13.3	11.3	8.2	9.7
その他のルートでのエントリー	0.7	0.6	0.7	0.5	0.9	0.7

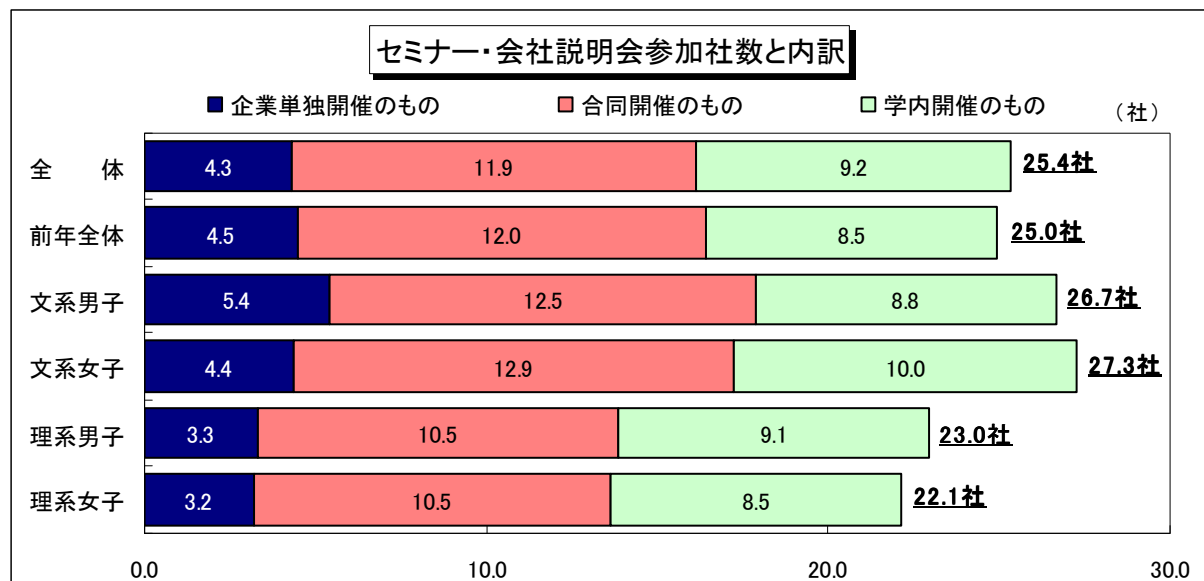


※()内は2013年1月調査の数値

3. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は 25.4 社。企業単独開催、合同開催への参加がやや減ったものの、学内開催への参加が増え、全体としては前年同期より 0.4 社の微増となった。学内開催セミナーへの一人あたりの来場回数の平均は 3.9 回で、合同セミナーへの来場回数の平均は 2.7 回だった。

企業単独セミナーについては、弊社が昨年 12 月に実施した企業調査（有効回答 1,158 社）では全体的に前倒しで開催する傾向が強く表れていたが、現時点では学生側の数字は増えていない。



合同開催・学内開催参加回数／平均

(回)

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.7	2.9	2.8	3.0	2.5	2.4
学内開催セミナーへの来場	3.9	3.8	4.0	4.7	3.2	3.4

4. 選考試験への参加状況

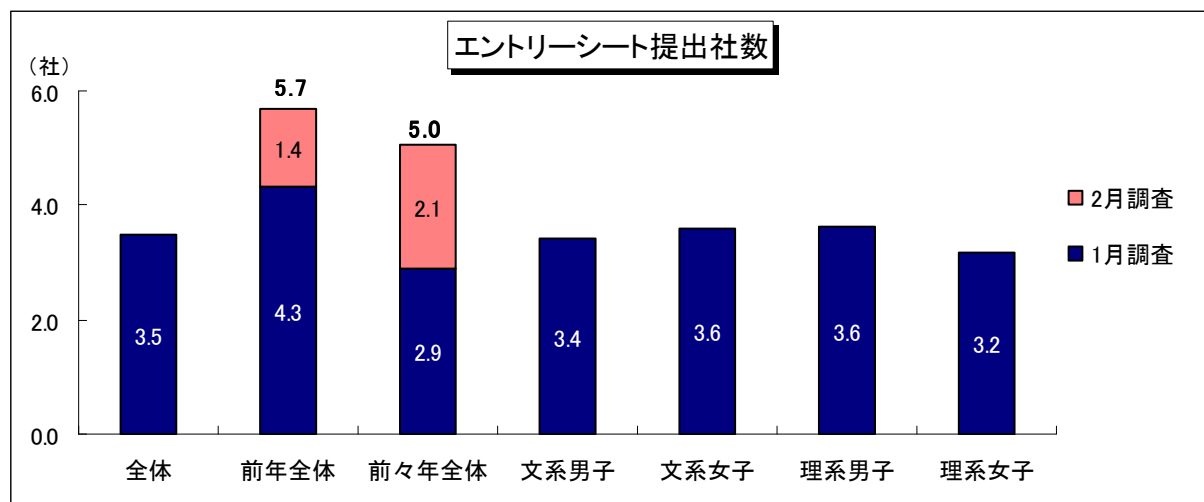
1 月 1 日現在で、企業にエントリーシートを提出した学生は全体で 35.5%。前年同期調査 (32.2%) よりも 3.3 ポイント上昇した。前述の昨年 12 月の企業調査において、全体の 32.6% が年内に受付を開始すると回答するなど、早めに受け付ける姿勢を示していたが、それに呼応するかたちで学生側も早まったと見られる。但し、提出社数を見ると平均 3.5 社で、前年の 4.3 社を 0.8 社下回っている。受付企業が増えても学生側が厳選して提出している可能性がある。

同様に、選考試験についても若干の前倒し傾向が見られるが、社数については微減している。冒頭で紹介した就職戦線の厳しさは緩和されるとの予想と相まって、受ける企業をじっくり見極めようとしているのかもしれない。

エントリーシート提出の有無

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	35.5	32.2	39.0	33.2	30.8	41.2
提出していない	64.5	67.8	61.0	66.8	69.2	58.8

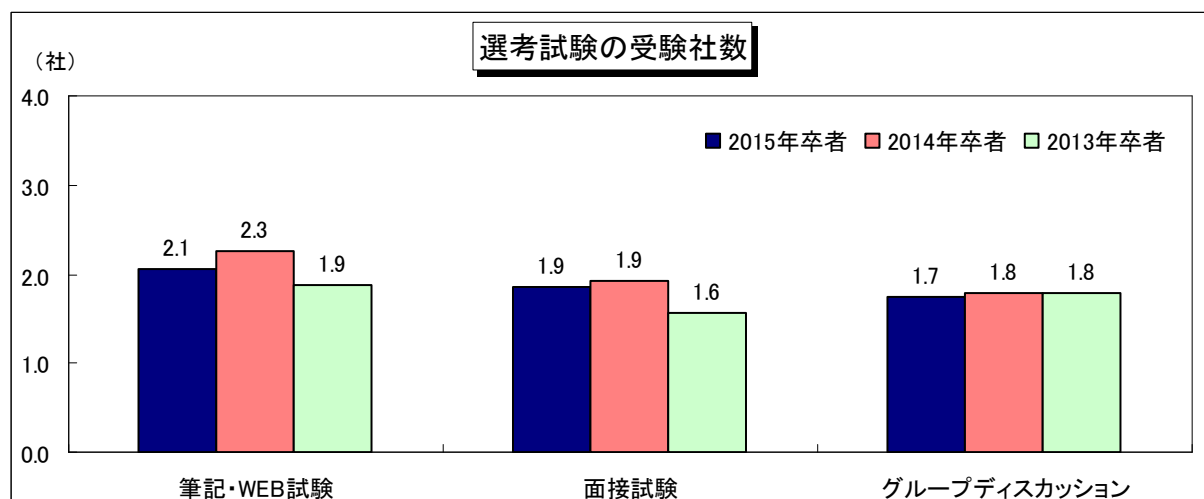
(%)



選考試験の受験状況

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	31.3	31.8	31.2	30.6	28.9	38.4
面接試験を受験した	12.6	11.6	14.4	13.6	10.3	10.4
グループディスカッションを受験した	15.0	12.3	19.0	14.8	12.5	10.0

(%)



5. 現時点での志望業界

1 月 1 日の時点で志望業界を「決めている」学生は 92.6%で、前年同期 (94.3%) と同じく 9 割以上が年内に志望業界を決めていた。前回調査 (11 月中旬実施) では、「決めている」との回答は 81.0%だったから、就職活動開始 1 カ月で着実に決めていっている様子が見えてくる。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「銀行」が 25.9%で最も多く、以下「水産・食品」22.1%、「マスコミ」17.3%と続く。上位業界の顔ぶれは前年調査と大きな変化は見られず、定番化していると言える。ただ、志望業界は選考が進んでいく中で変化していくのが毎年の傾向であるので、今後の推移にも注目していきたい。

1 月 1 日時点での志望業界(上位 20 業界)

※1人5つまで選択 (%)

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ① 25.9	銀行 38.4	銀行 36.3	電子・電機 28.1	医薬品・医療関連・化粧品 41.9
2	水産・食品 ② 22.1	保険 24.8	マスコミ 27.1	素材・化学 22.7	水産・食品 41.9
3	素材・化学 ⑤ 17.3	商社 (総合) 22.8	水産・食品 23.6	情報・インターネットサービス 22.7	素材・化学 35.5
	マスコミ ⑥ 17.3	運輸・倉庫 21.6	保険 18.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.6	情報・インターネットサービス 17.2
5	商社 (総合) ③ 16.3	マスコミ 17.5	運輸・倉庫 17.8	機械・プラントエンジニアリング 21.6	電子・電機 14.8
6	医薬品・医療関連・化粧品 ④ 15.8	建設・住宅・不動産 15.6	ホテル・旅行 17.6	水産・食品 21.1	マスコミ 14.3
	運輸・倉庫 ⑧ 15.8	官公庁・団体 15.2	商社 (総合) 17.4	エネルギー 20.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.8
8	保険 15.1	商社 (専門) 15.0	建設・住宅・不動産 16.3	自動車・輸送用機器 19.5	建設・住宅・不動産 13.3
9	電子・電機 ⑦ 14.5	エネルギー 14.0	信用金庫・労働金庫・信用組合 14.5	医薬品・医療関連・化粧品 17.7	調査・コンサルタント 12.8
10	建設・住宅・不動産 14.4	水産・食品 13.3	商社 (専門) 13.9	調査・コンサルタント 15.1	精密機器・医療用機器 12.3
11	情報・インターネットサービス ⑩ 13.5	信用金庫・労働金庫・信用組合 13.1	印刷・パッケージ 13.9	精密機器・医療用機器 13.8	商社 (総合) 10.8
12	エネルギー 12.7	調査・コンサルタント 12.7	医薬品・医療関連・化粧品 13.0	建設・住宅・不動産 11.2	官公庁・団体 10.3
13	官公庁・団体 12.3	素材・化学 11.3	官公庁・団体 12.3	通信関連 10.4	エネルギー 9.9
14	調査・コンサルタント 12.2	自動車・輸送用機器 10.9	素材・化学 11.2	商社 (総合) 9.6	通信関連 9.9
15	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.1	証券・投信・投資顧問 10.9	教育 9.5	官公庁・団体 9.6	運輸・倉庫 9.9
16	自動車・輸送用機器 11.3	情報・インターネットサービス 9.9	調査・コンサルタント 8.8	運輸・倉庫 9.1	商社 (専門) 9.9
17	商社 (専門) ⑨ 11.2	電子・電機 9.0	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 8.8	銀行 8.1	印刷・パッケージ 7.9
18	機械・プラントエンジニアリング 9.9	教育 8.4	エンターテインメント 8.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 7.8	エンターテインメント 6.9
19	信用金庫・労働金庫・信用組合 9.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.0	電子・電機 8.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.8	機械・プラントエンジニアリング 6.9
20	ホテル・旅行 8.3	ホテル・旅行 7.8	人材紹介・人材派遣 8.1	マスコミ 7.3	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.9
					農業・林業・鉱業 6.9
					その他サービス 6.9

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

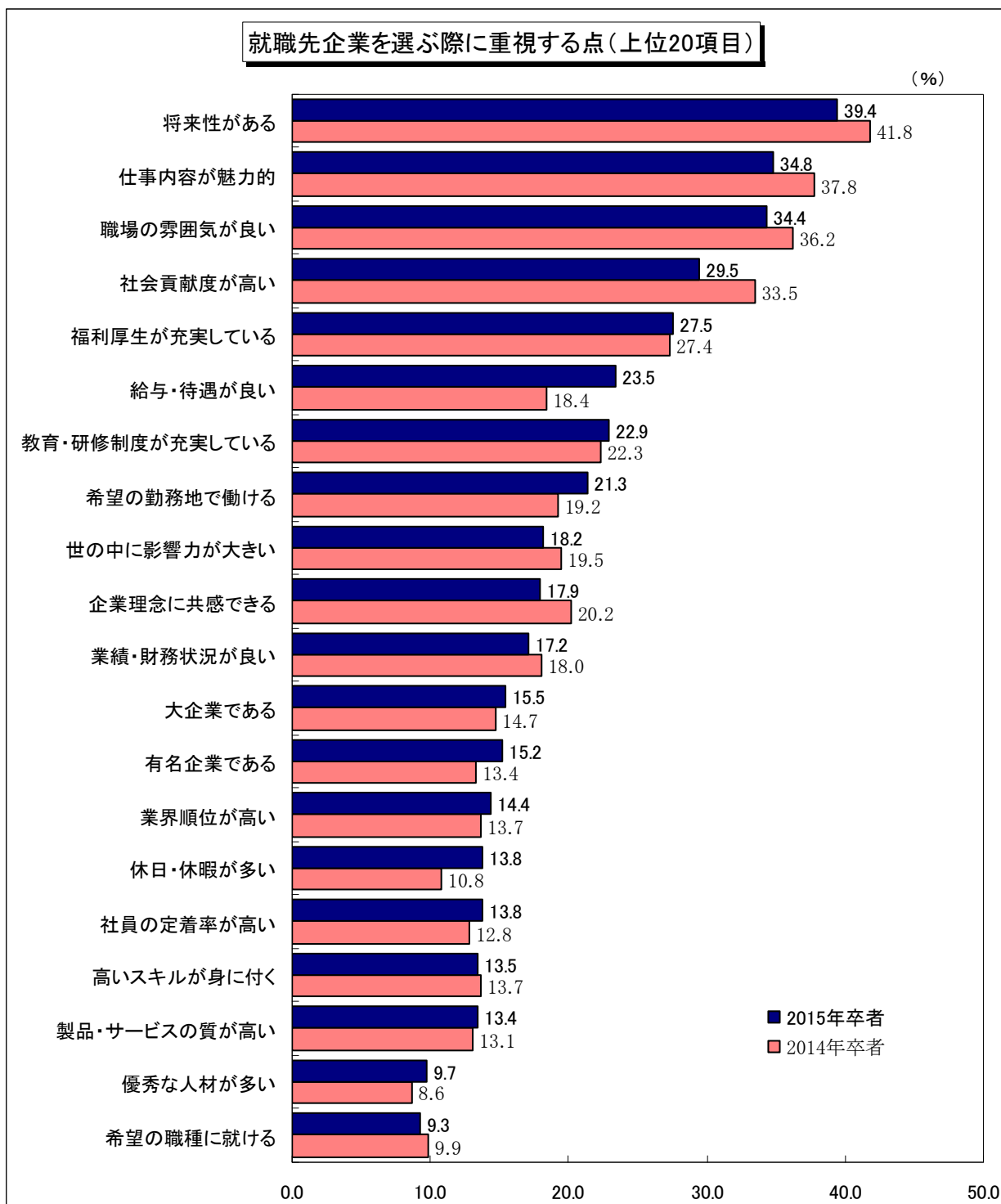
第1志望の業界(上位 5 業界)

(%)

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ① 9.6	銀行 13.8	銀行 15.0	素材・化学 9.1	水産・食品 15.8
2	マスコミ ③ 7.4	運輸・倉庫 9.4	マスコミ 13.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.6	医薬品・医療関連・化粧品 14.8
3	水産・食品 ② 6.6	商社 (総合) 8.2	運輸・倉庫 6.4	電子・電機 8.6	素材・化学 7.9
4	運輸・倉庫 ④ 6.5	官公庁・団体 7.8	水産・食品 5.9	医薬品・医療関連・化粧品 7.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 6.9
5	医薬品・医療関連・化粧品 ⑥ 5.8	マスコミ 7.4	保険 5.3	自動車・輸送用機器 7.0	建設・住宅・不動産 5.9

6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先企業を選ぶ際に重視する点を、31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。最も多いのが「将来性がある」で39.4%と約4割。次いで「仕事内容が魅力的」34.8%が続く。上位項目は前年と順位の変動はないが、ポイントが軒並み減少しており、とりわけ「社会貢献度が高い」が33.5%から29.5%へと4ポイント下がっているのが特徴的。代わりにポイントが上がったのは、「給与・待遇が良い」「休日・休暇が多い」「希望の勤務地で働ける」といった労働条件に関連する項目だ。安心して働ける環境をより求める傾向がうかがえる。「ブラック企業」の社会問題化や、景気の上向き感などから来る志向の変化と見るのが妥当だろう。

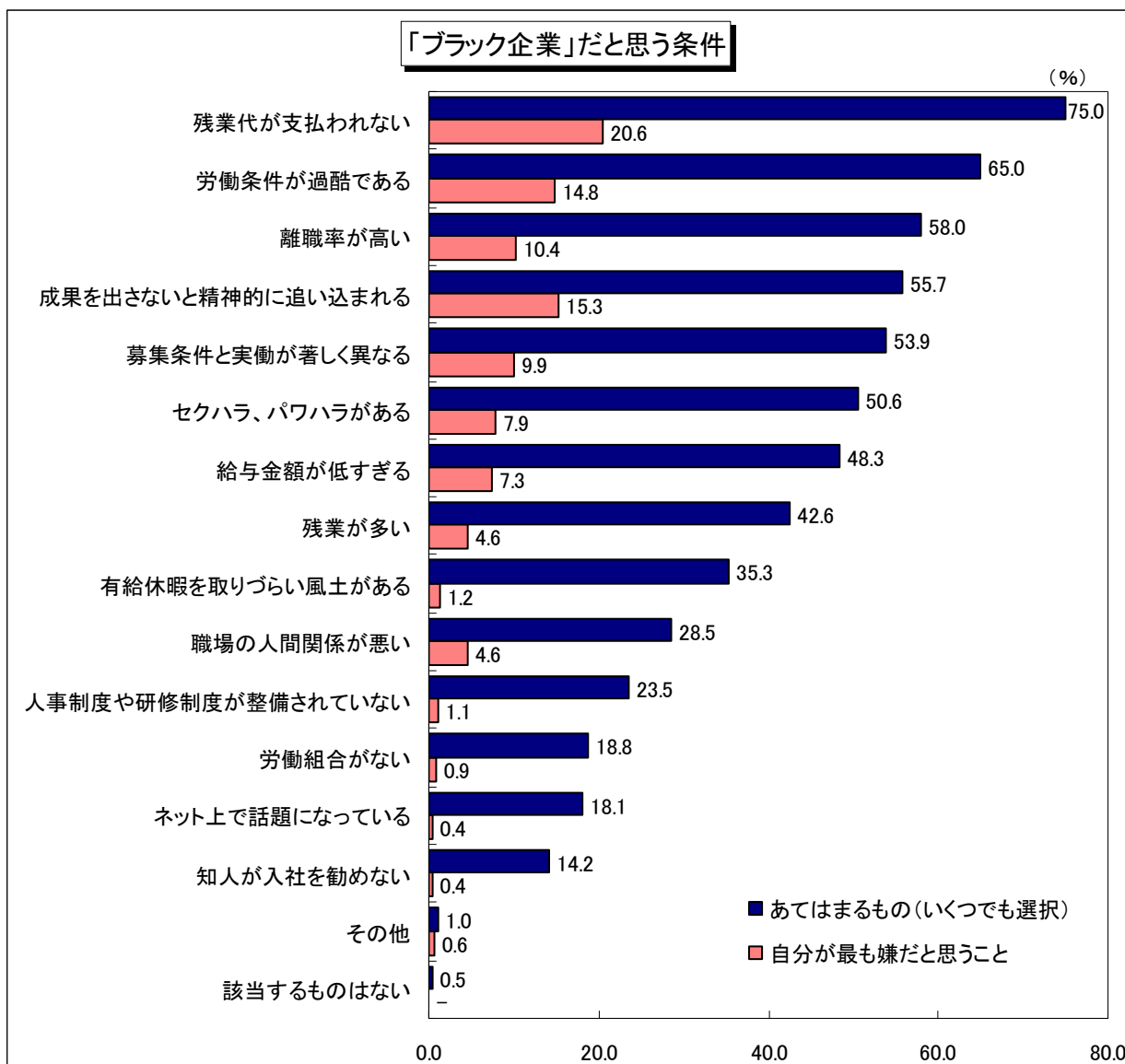


7. ブラック企業についての考え

若者に過酷な労働を強いる「ブラック企業」の問題がクローズアップされている。厚生労働省が、若者を積極的に雇用・育成する企業に「非ブラック」のお墨付きを与えたり（若者応援企業宣言事業）、ハローワークを通じて大学生を採用する企業に対し離職率の公表を求めることを決めたりと対策を講じているが、ブラック企業に確たる定義はなく、曖昧なまま議論されている。そこで学生の感覚を探るべく、どんな企業をブラック企業と思うかを尋ねてみた。

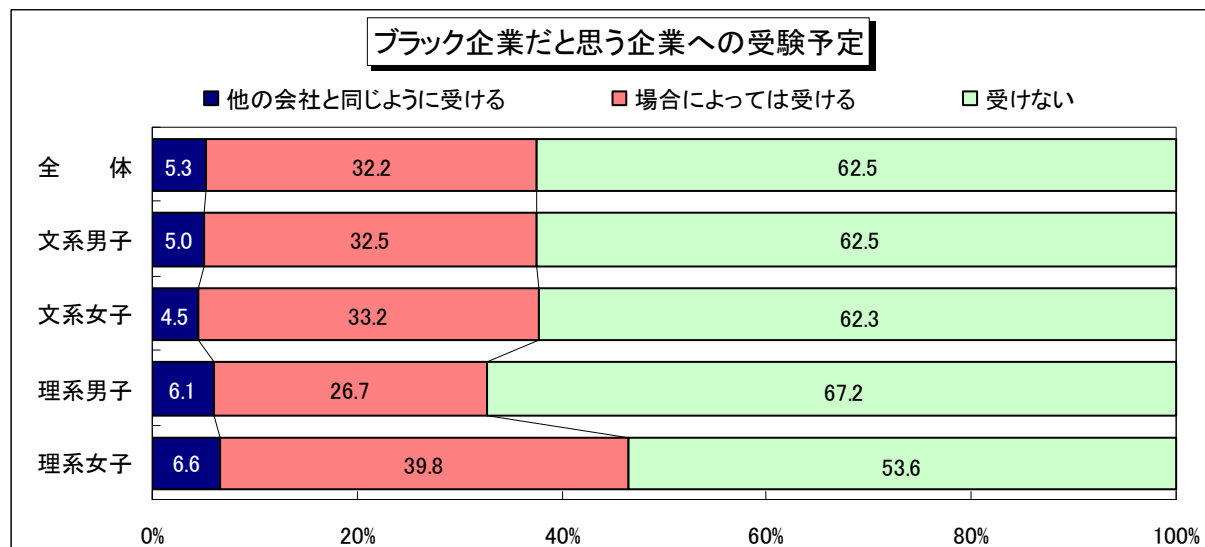
用意した項目からあてはまるものをいくつでも選んでもらったところ、「残業代が支払われない」が 75.0%で最も多く、「労働条件が過酷である」65.0%、「離職率が高い」58.0%などと続く。ブラック企業の情報はネット上で広まったり、クチコミで語られることが多いが、「ネット上で話題になっている」「知人が入社を勧めない」を選んだのは 2 割にも満たなかった。他人の判断ではなく、自分の価値観でとらえようとしている様子がうかがえる。

また、最も嫌だと思うことを 1 つだけ挙げてもらうと、「残業代が支払われない」(20.6%)、「成果を出さないと精神的に追い込まれる」(15.3%)、「労働条件が過酷である」(14.8%) がトップ 3 となった。



自分が「ブラック企業」だと思う企業の就職試験を受けるかどうか、その意向も重ねて尋ねた。「他の企業と同じように受ける」との回答は 5.3%と少数で、「場合によっては受ける」は 32.2%と 3 人に 1 人の割合、「受けない」が 62.5%と 6 割強を占めた。実際にブラック企業でなくとも学生にそう思われてしまうと 6 割強が受験を控えることから、負の影響度は 6 割と言える。

「受ける」と回答した人の理由として多いのは、「どこにも就職できないよりはまし」や「面接の練習になる」といったもの。逆に「受けない」理由としては「ブラック企業に入社しても長くは働けない」「社員を大切にせる企業で働きたい」といった意見が目立った。



■「他の企業と同じように受ける」理由

- 実際に社員に会って話をしてみないと本当にブラック企業なのかわからないから。 <文系女子>
- どの企業も何かしらの巷で言われるブラック的側面があると思う。気にしていたら企業選びの選択肢が減ってしまう。 <文系男子>
- 面接やグループワークなどの練習になると思うから。 <理系女子>

■「場合によっては受ける」理由

- どこも就職先が決まらなかったら仕方なく。 <文系男子>
- 持ち駒は多いほうが良いから。 <文系女子>
- ブラックでないと思う企業を優先して就職活動を進めるつもりだが、ブラックだと思う企業についても話を聞いたりして魅力を感じたりすることがあれば受験はするかもしれない。 <文系男子>
- 覚悟の上で就職したいと思った場合、受ける。 <理系男子>

■「受けない」理由

- 自分がブラック企業だと思っている企業に就職しても、満足に仕事はできないと思うから。 <文系男子>
- ブラック企業にだけは何かあっても絶対に入りたくないと考えている。人材を大切にせる企業に就職したい。 <文系女子>
- いくらやりたい仕事ができるとしても、労働環境が悪ければ続けることは難しいから。 <文系男子>
- 入社してから後悔したくないから。 <理系女子>
- ブラック企業に入社することにより、人生を破綻させたくはないからです。 <文系女子>
- いくらやりがいのある仕事でも、賃金に見合わない労働環境の中では働く理由が見失われそうな気がするため。 <理系男子>